

平成 29 年度水質測定計画について（概要）

福島県生活環境部水・大気環境課

第 1 公共用水域水質測定計画

1 計画策定の基本的な考え方

(1) 目的

公共用水域水質測定計画は、水質汚濁防止法第 16 条第 1 項の規定に基づき、県内の公共用水域（河川、湖沼及び海域）の水質汚濁の状況を常時監視するために行う水質の測定について、必要な事項を定めるものである。

(2) 測定地点

測定地点は、水質汚濁に係る環境基準の類型指定がされた水域の環境基準点、補助点及びその他必要な地点とし、原則として前年度の計画と同一とする。

ただし、環境基準の類型指定がされていない支川のうち 24 地点については、ローリング方式^{*}を導入している（各年約 8 地点×3 年間）。

※ ローリング方式

水質の変化が少なく環境基準が継続して達成されている水域について、数年おきに測定を行う調査方式。

(3) 測定項目

測定項目は、水質汚濁に係る環境基準項目（生活環境項目及び健康項目）、要監視項目、トリハロメタン生成能及びその他の項目とする。

(4) 測定回数

測定回数は下記を基本とし、測定地点毎に水域状況等を踏まえ一部変更する。

ア 環境基準点又は補助点

(ア) 河川は、生活環境項目は毎月 1 回を基本とする。

(イ) 湖沼は、生活環境項目は毎月 1 回を基本とする（自然条件により調査が不可能な期間を除く）。

(ウ) 海域は、年 6 回の等間隔の調査を基本とする。ただし、松川浦については、海域環境を考慮して年 12 回とする。

イ その他の地点

四半期毎に 1 回程度を基本とする。

2 公共用水域水質測定計画（案）の概要

(1) 測定項目

ア 環境基準項目

(ア) 生活環境項目

pH、BOD、COD、大腸菌群数等12項目

(イ) 健康項目

カドミウム、鉛、総水銀等27項目

イ 要監視項目

クロロホルム、トランス-1,2-ジクロロエチレン等31項目

ウ トリハロメタン生成能

クロロホルム生成能、ブロモホルム生成能等4項目

エ その他の項目

(ア) 特殊項目

銅、溶解性鉄等5項目

(イ) その他項目

アンモニア性窒素、オルトリン酸態りん等10項目

(2) 実測定地点

水域	平成28年度	平成29年度	増減
河川	79河川 (97水域) 134地点	78河川 (95水域) 131地点	-3*
湖沼	18湖沼 (18水域) 31地点	18湖沼 (18水域) 31地点	0
海域	13海域 (13水域) 34地点	13海域 (13水域) 34地点	0
計	110河川等 (128水域) 199地点	109河川等 (126水域) 196地点	-3

※ ローリング地点の変更による減

(3) 平成28年度からの変更点（ローリング地点は省略）

ア 福島県測定

連番号	水域名	地点	項目	変更内容（年）	変更理由
15	濁川	濁川橋	生活環境項目	全亜鉛 2回→4回	濁川の全亜鉛が環境基準は超えていないものの、比較的高い値で検出されたため、濁川の全亜鉛濃度を注意深く監視するため。
16	〃	山崎橋	〃	〃	
105	請戸川	室原橋	生活環境項目	全亜鉛 0回→2回	避難指示解除準備区域等の指定解除等に向けて、住民の安全・安心に資するため、水質の汚濁状況を把握することが必要であるため。（震災前の測定項目等に戻す。）
106	〃	請戸橋	生活環境項目、健康項目、特殊項目	(pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌群数) 4回→12回 (全窒素、全りん、全亜鉛、全クロム、健康項目(アルキル水銀、PCBを除く)) 0回→2回 (PCB、ノニルフェノール、LAS) 0回→1回	
107	高瀬川	慶応橋	生活環境項目、健康項目	(pH、DO、BOD、SS、大腸菌群数) 4回→12回 (全窒素、全りん、全亜鉛、健康項目(アルキル水銀、PCBを除く)) 0回→2回 (PCB、ノニルフェノール、LAS) 0回→1回	
178	相双地区地先海域	東京電力(株)第一原子力発電所沖約1,000m付近	生活環境項目	(pH、DO、COD、大腸菌群数、ノルマルヘキサン抽出物質) 4回→6回	
179	〃	東京電力(株)第二原子力発電所沖約1,000m付近			
172	四時ダム貯水池	四時ダムサイト	トリハロメタン生成能	0回→1回	

イ 福島県以外の測定（国土交通省測定地点）

連番号	水域名	測定地点名	項目	変更内容（年）	変更理由
173	三春ダム貯水池	三春ダムサイト	生活環境項目、健康項目、その他の項目	LAS 0回→4回 健康項目（硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素を除く） 2回→1回 オルトリン酸態りん0回→12回	ダム貯水池水質調査要領の改正に伴い、測定計画の見直しを行った。
174	摺上川ダム貯水池	湖心	その他の項目	オルトリン酸態りん0回→12回	〃

第2 地下水の水質測定計画

1 計画策定の基本的な考え方

(1) 目的

地下水の水質測定計画は、水質汚濁防止法第16条第1項の規定に基づき、県内の地下水の水質汚濁の状況を常時監視するために行う水質の測定について、必要な事項を定めるものである。

(2) 調査の種類

ア 概況調査

地域の全体的な地下水の状況を把握するために実施する調査。新たな汚染の発見を目的としているため、未調査の井戸又は前回と異なる深度の井戸を優先的に選定する。

(ア) ローリング方式

県内を概ね10kmメッシュに区分(全113区分)して、各メッシュから井戸を選定し、ローリング方式により5年程度のサイクルで全メッシュを実施する調査。

(イ) 定点方式

有害物質を使用又は製造している工場・事業場等による汚染の可能性が高い地域若しくは汚染を予防する必要性が高い地域の井戸を選定し実施する調査。

イ 汚染井戸周辺地区調査

概況調査等により新たに環境基準を超える汚染が判明した場合や、環境基準以下で汚染(硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素並びにほう素については対象外)が判明した場合、その汚染範囲を確認するとともに汚染原因の究明に資するために実施する調査。

ウ 継続監視調査

汚染地域において、汚染の動向と浄化対策による改善効果の確認等をするために経年的に実施する調査。

(3) 測定項目

ア 概況調査(ローリング方式)

地下水の水質汚濁に係る環境基準項目の全項目とする。

イ 概況調査(定点方式)

環境基準項目のうち、測定井戸の周辺の状況等に応じて適宜選定する。

ウ 汚染井戸周辺地区調査

環境基準超過項目及び環境基準以下で検出した項目(硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素並びにほう素については対象外)とする。

エ 継続監視調査

汚染の認められた項目及び汚染の可能性が高い項目とする。

(4) 測定回数

概況調査及び継続監視調査の測定回数は、年1回とする。

2 地下水の水質測定計画（案）の概要

(1) 概況調査（ローリング方式）

- ア 測定地点数 26メッシュ27地点
- イ 測定項目 地下水の水質汚濁に係る環境基準項目（27項目）

(2) 概況調査（定点方式）

- ア 測定地点数 30地点
- イ 測定項目 環境基準項目のうち測定井戸の周辺の状況等に応じて選定

(3) 継続監視調査

- ア 測定地点数
 (平成28年度との相違点)
 ①新たに追加するもの
 5地点
 ②井戸破損等により調査を打ち切ったもの
 3地点
 (平成28年度地点数) (追加地点数) (削減地点数) (平成29年度地点数)
 193地点 + 5地点 - 3地点 = 195地点
- イ 測定項目
 汚染の認められた項目を基本とし、測定井戸の周辺の状況等に応じて選定

地下水測定地点数等総括表

区分		測定地点数			測定項目数		
		H28	H29	増減	H28	H29	増減
概況 調査	ローリング	25	27	+2	675	729	+54
	定点	30	30	0	223	235	+12
継続監視調査		193	195	+2	1,090	1,101	+11
合計		248	252	+4	1,988	2,065	+77